

平成29年度 第2回 川口市総合教育会議会議録

1 日 時 平成29年12月19日(火) 午後1時30分から2時20分まで

2 場 所 上青木公民館2階 講座室1号

3 出席者(構成員6名)

(市長)		奥ノ木 信夫
(教育委員会) 教育長		茂呂 修平
	教育長職務代理者	山口 善子
	委員	齋藤 卓
	委員	宿谷 岩男
	委員	中田 裕之

(構成員以外)

○市長部局

(市長室長)	清水 竹敏	(子ども部長)	福田 亨
(政策審議員)	秋葉 知佳子	(子ども総務課長)	根岸 延好

○教育局

(生涯学習部長)	古澤 貢	(学校教育部長)	井上 清之
(学校教育部理事)	川田 稔	(教育総務課長)	間中 浩之
(学務課長)	杉田 明	(指導課長)	大竹 伸明

○事務局

(教育総務課長)	間中 浩之	(教育総務課庶務係長)	栗原 栄
(教育総務課庶務係主査)	菅井 学		

4 議 題

(1) 開 会

(2) 挨 拶

(3) 議 事

ア 平成29年度 第1回 川口市総合教育会議の会議録について

イ 川口市立高等学校の長期海外派遣制度について

(4) その他

(5) 閉 会

5 議事の要旨

【開会】

事務局（教育総務課長）

定刻になりましたので、ただ今より、平成29年度第2回川口市総合教育会議を開会させていただきます。

私は、事務局を努めさせていただきます、教育総務課長の間中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに本日の傍聴希望者でございますが、本日は、報道機関の取材がございますので、これより入室をしていただいでよろしいでしょうか。

委員

了承

【傍聴者入室】

事務局（教育総務課長）

それでは、始めに、奥ノ木市長から、ご挨拶を頂きたいと存じます。

【挨拶】

奥ノ木市長

皆様こんにちは、本日は師走のお忙しいところ、本年度第2回、川口市総合教育会議にご参集いただき、ありがとうございます。

本年も残すところわずかとなりました。年の瀬ということでお忙しく過ごされていると思います。寒さの厳しい日が続いておりますので、インフルエンザにかからないよう気をつけてください。

早いもので、私の市長の一期目の任期も残りあとわずかとなってまいりました。平成26年2月に市長に就任した際に、平成30年を節目の年と位置づけ、みんなでつくる川口の元気ということのスローガンに、進めさせていただきました。川口市が元気に、そして、更に多くの皆様に選ばれるまちとなるような街づくりを進めてまいりました。特に、小中学校へのエアコン設置や、保育所の増設等の子育て・保育環境の充実等を掲げたマニフェストや、更には川口市立高等学校の建設等の三大プロジェクト等、皆様の協力のおかげで、全て順調に進んでいるというのが現状でございます。皆様ありがとうございました。

また、去る、11月21日に本市を中核市に指定する閣議決定がなされ、同月27日、政令が公布されました。

中核市になることにより、約2,200もの事務権限が川口市に移譲され、その3分の2は、保健、福祉、医療に関する権限ですが、もちろん教育に関する権限、都市計画に関する権限、環境に関する権限、様々な権限が移譲される予定でございます。特に教育の分

野では、教職員研修の権限が移譲されることとなります。簡単に言いますと、これまで川口市民の健康について、今まで以上に、川口市の実情に応じた、きめ細やかな行政サービスの提供が可能となります。そのため、移譲される事務権限を最大限活用し、川口市がより元気に、そして、より選ばれるまちになるよう、今後も鋭意取り組んでまいりたいと考えておりますので、教育委員会におかれましても、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、本日は川口市立高等学校の長期海外派遣制度について、新しく開校する川口市立高等学校の生徒が夢と希望が持てるような制度となるよう、教育委員会の皆様と意見交換をしていきたいと考え、お集まりいただきました。意見交換は、この後、教育委員会からの説明を受けてから、行いたいと思いますが、私個人の意見としては、若い頃に、海外に行き、日本とは全く異なる文化を体験することは、非常に重要であり、貴重な経験であると思っております。それが、短期ではなく、長期ということであれば、なおさらのことではないかと思えます。

教育長に実際に現地の視察もしていただいておりますので、本日は、教育長の現地視察の体験談などもご説明いただきながら、意見交換ができればと思っております。

それでは、本日の会議につきましても、忌憚の無いご意見を頂くことをお願いいたします。私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【議事】

事務局（教育総務課長）

どうもありがとうございました。

次に、議事に移らせていただきます。議事進行につきましては、奥ノ木市長にお願いしたいと存じます。

議長（奥ノ木市長）

それでは、これより私が議事の進行を努めさせていただきます。

始めに、議事の（１）「平成２９年度 第１回川口市総合教育会議の会議録について」でございますが、第１回会議録については、事前に事務局より配付させて頂いておりますが、この内容について、修正等のご意見はございませんか。

【「異議なし」の声】

議長（奥ノ木市長）

異議なし、とのお声を頂きましたので、平成２９年度 第１回川口市総合教育会議の会議録については、お手元のとおりとさせていただきます。

なお、会議録の署名人については、川口市総合教育会議運営要綱第１０条第２項の規定により、市長である私から２名の方を指名させていただきます。

第1回会議録の署名人については、宿谷委員と、中田委員のお二人にお願いいたします。

続きまして、議事の(2)「川口市立高等学校の長期海外派遣制度について」、話をしていきたいと思います。

それでは始めに、教育委員会より説明をお願いいたします。

茂呂教育長

川口市立高等学校の長期海外派遣制度の説明に入る前に、次の3点を明確にさせていただきます。1点目といたしまして、高校生を長期に海外留学させる目的について、2点目といたしまして、短期の派遣でなく、長期派遣の場合のメリットについて、3点目といたしまして、オハイオ州フィンドレー市に川口市立高等学校の生徒を派遣するに至った経緯についてです。

高校生を長期に留学させることの目的は大きく2つございます。1つ目は、高校生という多感な時期に、海外で現地の高校生と同じ生活をすることによって、直接異文化を体験し、国際感覚を磨く、ということです。2つ目は、長期の留学生活を通じて、総合的な英語運用力を伸ばし、グローバル社会に対応するコミュニケーション能力を身に付ける、ということです。

次に、長期留学のメリットは以下の5点であると考えます。1つ目といたしましては、長期間留学をすることで、現地の学生と共に授業を受け、日々のクラスメイトやホストファミリーとの会話を通じて高度な英語が身に付きます。2つ目といたしましては、親元から遠く離れ、異国の地で生活することで、何事も自分でやらなければならない、という自立心が育ちます。3つ目といたしましては、アメリカは多種多様な人種が混在する国です。様々な社会的、文化的背景を持つ人たちと生活することで、豊かな国際感覚が身に付きます。4つ目といたしましては、長期間留学をすることでホストファミリーや、学校の級友との人間関係が成熟していきます。5つ目といたしましては、フィンドレー市は観光地でもありませんし、レジャー施設が多くある市ではありません。しかし、留学生を受け入れてくれる温かい地域の雰囲気があります。留学生は地域の行事にも積極的に参加し、地域との結び付きを深めることができます。

次に、フィンドレー市に川口市立高等学校の生徒を派遣するに至った経緯でございますが、1点目といたしまして、平成2年より埼玉県とオハイオ州は姉妹友好県州提携関係にあったことが挙げられます。2点目に、昨年夏に、フィンドレー大学に勤務する日本人の准教授が埼玉県庁国際課並びに本市を訪問し、奥ノ木市長の新市立高校の留学に対する思いを聞き、留学先としてフィンドレー市及びフィンドレー高校を紹介していただいたことから両市の教育分野での関係が始まりました。

次に位置関係についてですが、オハイオ州は、アメリカ合衆国中西部と呼ばれる地域に位置しています。北部にはミシガン州エリー湖やデトロイト、西部はインディアナ州、南部はケンタッキー州が位置しています。州都はコロンバスで、他の大きな都市はクリーブ

ランドやシンシナティがあります。

フィンドレー市の概要について説明をいたします。フィンドレー市は郊外に巨大な工業団地を有しており、また、マラソン精油とクーパータイヤという全米屈指の2つの大企業はフィンドレー市に本社を置いています。市の縦横を横断する高速道路にアクセスがよいことから、郊外には大企業の物流センターが多く点在しています。農業は主に、トウモロコシ、大豆、小麦を生産しています。フィンドレー市内の家々は、どの家も芝がきれいに整備され、1軒1軒の広さも日本の比ではありません。

フィンドレー市の街並みですが、緑との調和がとれた大変美しい街並みです。芝や植木は手入れが行き届き、昔の建物も多く残されています。市全体が「古き良きアメリカ」の面影を残しています。また、治安も良好で、留學生が長期間生活をするには安全な地域との印象を受けてまいりました。

ホームステイの家庭に求められていることは安全性、学校への通いやすさ、緊急時の対応、家庭の経済力などが挙げられます。フィンドレー市教育委員会には、川口市の派遣生が滞在するにあたり重視していることをお伝えし、情報の共有をしたところでございます。今回の視察では市内のいくつかの家庭を訪問する機会に恵まれました。どの家庭も温かい雰囲気に入れられ、派遣生を喜んで受け入れてくれるのではないかと感じたところでございます。

次にアメリカの学校についてご説明いたします。アメリカの学校制度は日本とは若干異なります。高等学校は日本の中学校3年から高校3年までの4年間にあたります。川口市立高等学校からの派遣生は2～3年生の学年で学ぶことになります。フィンドレー高校の4年生の一部のクラスは大学レベルの授業を受けることが可能となっております。

フィンドレー市教育委員会のエド・カート教育長は、素早い決断力と行動力で自らが先頭に立って市の教育行政を牽引しています。

次に、川口市からの派遣生がお世話になるフィンドレー高校についてお話しいたします。フィンドレー高校はフィンドレー市にある唯一の公立高校で、ミルストリームキャリアセンターという職業訓練学校が併設されています。生徒数約1,600名で15歳から18歳までの生徒が学んでいます。文武両道の学校で、クラブ活動も大変盛んです。学校は朝7時30分から始まり、15時には終わります。

この写真は生徒たちが授業の間にグループで勉強をしたり、また、昼はお昼ごはんを食べるカフェテリアとなる場所です。壁には大きくてカラフルな壁画が飾られています。これは卒業した生徒が作成したもので、それぞれの壁画には卒業生の一人一人の名前が入っています。

またこれはフィンドレー高校の体育館の壁面ですが、今年度の運動部の最上級生が大きな写真で紹介されています。一人一人の個性を大切にするという一面がこのようなところにも現れています。

これは7ハビッツ、7つの習慣という学校教育目標です。幼稚園から大学まで、一貫してこの目標が貫かれており、学校のいたるところで大きく掲示されています。7つの習慣

の1つ目は、「主体的であれ」、2つ目は、「終わりを思い描くことから始める」、3つ目は、「最優先事項を優先する」、4つ目は、「Win Win を考える」、5つ目は、「まず理解に徹し、そして理解される」、6つ目は、「シナジーを創り出す」、7つ目は、「刃を研ぐ」となっております。

この方は、フィンドレー高校のライアン・イマキ校長先生です。ライアン校長先生はともフレンドリーで気配りのできる方で、先生方からの信頼も厚い校長先生です。

フィンドレー高校は4学年、約1,600名の生徒が学ぶ大きな高校です。管理職の先生方は、校内の安全面を含めて効率的な学校運営をしております。

これは、セラミック加工と陶芸のクラス風景です。先生は多くを教えません。大切なポイント、安全面などを指示し、あとは生徒自身が体験する過程を大切にしています。多様な学びの形もフィンドレー高校の魅力です。

これは物理の授業風景です。生徒たちはこれから実験をするにあたり、ポイントとなるいくつかの点を先生から聞いています。先生の説明は必要最低限であり、生徒たちが考え、自分たちで答えを導き出す過程を大切にしています。

これは物理の授業風景です。先生は課題を生徒に与えグループで実験を重ねています。クリエイティブに考える過程を大事にしており、それぞれのグループで結果が出た後は徹底したディスカッションを行います。グループ内のコミュニケーションと自分たちの意見を他人にしっかりと伝えるスキルも身に付きます。授業は大学レベルの授業となっており、取得した単位は大学の単位として数えることが可能です。

フィンドレー高校は音楽や芸術の分野で大変定評のある学校です。写真は、歌と踊りのショークワイアーのミニコンサートの様子です。このクラブは大変競争が激しく、舞台上立つだけでも大変なことだそうです。オハイオ州内だけでなく、全米でもトップクラスのパフォーマンスを見せてくれているそうです。

こちらはスチールドラムのクラブ、「パンテイジア」のミニコンサートの模様です。このクラブは地域のイベントなどで引っ張りだこのグループで大変人気があります。生徒たちは学業も力を入れていますが、クラブ活動や地域のボランティア活動など多岐にわたる活動をバランスよく行っています。フィンドレー高校はクラブ活動も大変盛んな学校です。文武両道を目指している学校ですので、川口市立高等学校の提携先として適していると思っております。

フィンドレー高校にはミルストリームという職業訓練学校が併設されています。生徒はフィンドレー市を含む周辺地域から集まってきます。午前中は高校3年生、午後は高校4年生の生徒の授業が行われています。溶接、自動車、建築、コンピューターエンジニアリング、ホテル・レストラン、保育、医療など分野は多岐にわたります。生徒は卒業と同時に、それぞれの分野での資格を取得することができ、希望の職につける可能性が高くなります。最新の機器が設置された大規模な教育環境はとても圧巻でした。

これはミルストリームキャリアセンターの中にあるカフェテリアです。地域の住民の方にも開放されており、本格的なランチを食べることができます。食材の調達、調理の他、

ウェイターもレストラン経営などを学んでいる学生がすべて担当しています。

集合写真の後ろに写っているのは、ミルストリームキャリアセンターの学生が運営に携わるレストランの厨房です。本格的な料理を提供し、地元の人々も多く訪れていました。中央に写っている方は、オハイオ州の教育委員長も勤めた経験を持つダンホフ校長先生です。

ここからは、フィンドレー高校への留学の概要を述べさせていただきます。大きく分けて、派遣人数、派遣期間、そして経費の3点でございます。

まず派遣人数につきましては、川口市立高等学校の平成31年度の2年生から2名を選抜し、派遣する予定であります。ただし、派遣生の適正や英語力によっては1名になる可能性もございます。

派遣期間につきましては、2年生の8月中旬に渡米し、3年生の6月上旬に帰国を予定しております。また、現地での取得単位数は30単位を上限とし、2年生の成績として振り替えることが可能となりますので、派遣生は留年をせずに卒業することができることとなります。

次に留学の経費でございます。経費につきましては、派遣生1名につき120万円、2名で240万円となります。この内、渡航費の40万円を奨学金という形で助成する予定です。滞在中の保険、ホームステイ費用などは自費となります。ホームステイの費用につきましては、月々500ドル程度、日本円で、55,000円程度を予定しております。また、フィンドレー高校の授業料は免除されます。

最後に、今後のフィンドレー市との連携締結に向けた動きについてご説明いたします。来年度、市長と私がフィンドレー市を訪問し、フィンドレー市教育委員会と、教育分野での調印を行う予定です。また、相互交流の先駆けとして、平成30年6月2日から10日にかけて、フィンドレー市教育長を含むフィンドレー市からの訪問団4名が川口市を訪問し、市内の学校や教育施設等の視察を予定しております。平成31年度には、川口市立高等学校から第一期派遣生がフィンドレー高校に留学する予定です。

説明は、以上でございます。よろしく願いいたします。

議長（奥ノ木市長）

ただ今、茂呂教育長から「川口市立高等学校の長期海外派遣制度について」、説明がございましたが、これらについて、補足やご質問、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

奥ノ木市長

フィンドレー市は、安心、安全の面で非常に良い街であると聞いていますが、その点について、実際視察してみたいかがでしょうか。

茂呂教育長

市長のお話のとおりで、安心、安全の面については、非常に良いという印象を受けました。アメリカの多くの学校では、自分の荷物をロッカーに入れた後、施錠しないと誰かに持ち去られてしまうことが多いのですが、フィンドレー高校では、施錠しなくても大丈夫とのことでした。このような点からも安心、安全の面では、非常に良いという印象を受けております。

奥ノ木市長

加えて、既に埼玉県が、姉妹州県を結んでおります。そのため、現地で何かあった時、相談にのってもらえる部分もあるのではないかと考えております。また、日本の企業もあるとのことなので、そういった点も安心できる点になると思います。

全く交流の無いところからの開拓では無いという安心感があると思います。

話は変わりますが、川口市立高等学校の2年生を2名程度派遣するということですが、派遣生には、どのくらいの語学力が求められるようになる予定でしょうか。

茂呂教育長

現地では、高校の中で専属の先生も付けてもらえるとのことでしたが、10ヵ月の長期の留学のため、日常会話が出来ないと辛いとのことでした。

奥ノ木市長

受験の英語は得意であっても、日常会話がどのくらい出来るかということ、これはまた異なると思います。実際に海外派遣に行く前に、訓練等必要だと思いますが、教育委員会では何か実施する予定となっているのでしょうか。

指導課長

現地の英語での授業がスムーズに受講できるレベルまで、それなりの期間をかけて実施する予定となっております。

奥ノ木市長

来年はどのような予定になっているのでしょうか。

茂呂教育長

市長と私がフィンドレー市に赴き、教育分野における提携をする予定をしております。

山口委員

平成31年度に第1期生を派遣するということですが、これは、来年度の新規入学生が該当することになると思います。川口市立高等学校の学校説明会等で、生徒や保護者から

長期海外派遣制度に挑戦してみたいという声は届いておりますでしょうか。

茂呂教育長

私が学校説明会に出席した際に、その場で長期海外派遣制度について行ってみたいかという問いかけをしたところ、行ってみたいと多くの手が挙がりました。そのため、海外派遣制度で行ってみたいという生徒は多くいると考えております。

山口委員

市長のお話にもあり、気にして頂いている点だと思われませんが、事前の勉強や事前の力をどのように図る予定なのでしょうか。

茂呂教育長

それらの点については、川口市立高等学校がスタートした後に決めていくこととなると思いますが、おそらく今の構想では、1年生の夏場には選抜に入り、残りの半年でALT等で日常的に教えて、現地で対応できるような語学力を身につけていくような形を考えております。

学校教育部長

只今の件についてですが、ALTは、授業を中心に、英語の支援を行います。

それに加えて今回は、ネイティブの教員を雇用するとともに、その教員以外にも非常勤のネイティブの教員を配置して、派遣生のみならず、それ以外の生徒も日常から英語に親しめるような環境を作っていこうと考えております。

奥ノ木市長

フィンドレー市に行くからの生活もあるので語学力は基本的に非常に大切ですが、それだけではなく、その生徒の人間力やその他の教科の力なども大切だと思います。そのため、語学力や人間性等を含めた、総合的な力を見て、選抜していただければと思います。

宿谷委員

市からの留学の補助の40万円という金額は、十分ということではよろしいでしょうか。

茂呂教育長

現時点では、補助はほとんど無いため、その点から考えると、恵まれていると思われま

中田委員

長期派遣期間中、派遣生は日本の文化について、現地の方々に聞かれることになると思われませんが、この点について、長期海外派遣の準備期間で何か講習を行ったりする予定でしょうか。

茂呂教育長

選考基準の中に、日本の文化や伝統的なものについての項目を設けることになると思われれます。また、併せて、川口市の文化や特色についても必要になると思われれます。

奥ノ木市長

生徒を海外に行かせるということは心配な面もあって当然だと思いますが、今の時代、グローバル人材というのは、そういうところに果敢に飛び込むという姿勢が求められるのではないかとともに思います。

齋藤委員

交換留学という形になるのでしょうか。

茂呂教育長

当面は、フィンドレーからは、教員を3名程度、教員研修として受け入れる予定です。日本の教育や教育施設を見て視察、研修を行い、それを数年間実施した後に、生徒の派遣も視野に入れて検討していくとのことでした。

齋藤委員

教員研修の受け入れは、どのくらいの期間実施する予定でしょうか。

茂呂教育長

概ね3年程度の見込みです。生徒の受け入れについては、その後、検討することになると思われれます。

齋藤委員

留学の際は、ホームステイ先は非常に大切なところだと思われれますが、家族構成等、ホームステイ先のシュミレーションはございますか。

茂呂教育長

派遣終了後もコミュニケーションを図るうえで、友達になれていないと困るので、安全・安心はもとより、派遣生と同じ学年の子どもがいるご家庭で、なおかつ、安全・安心な家庭環境のお宅を探して頂きたいと、お願いしております。

齋藤委員

現地の医療事情も気になるところですが、その点はいかがでしょうか。

茂呂教育長

現地には、大きな総合病院のような医療機関がありました。が、疾病の際は、その他の医療機関にかかり、基本的には薬をもらうだけで、大きな医療機関に行くというは、相当な症状でないと無いということでした。

山口委員

10ヶ月で単位が上限で30単位が認められるということでしたが、川口に戻ってきた時、日本の高校2年生の勉強をしたいという生徒もいるかと思いますが、そういう選択も可能になるのでしょうか。

奥ノ木市長

そうしてしまうと、日本で勉強している生徒も、納得いかないからもう一年やりたいということ認めることになってしまうのではないのでしょうか。

山口委員

海外留学については、留学制度を利用した留学と休学制度を利用した留学があり、留学制度と休学制度のどちらかを選択してから留学に行っていたと思いますが、そのあたりはどうか。

学校教育部長

基本的には、派遣先での単位を認めて、3年間で卒業というのを考えております。ただし、現在は、準備の段階ですので、検討課題の一つとしていきたいと思っております。

奥ノ木市長

このことは、留学に限ったことという認識でよろしいでしょうか。

学校教育部長

その通りです。

奥ノ木市長

この点については、是非研究して頂ければと思います。

中田委員

派遣生が戻ってきた後の活躍の場は、どのように考えておりますでしょうか。

茂呂教育長

夢としては、派遣生が高校を卒業した後、フィンドレー大学に入学してくれる生徒が出てきたらと思っております。そこで、いろいろなことを学んで、そこから川口とフィンドレーの架け橋になってくれることが、川口市教育委員会の夢です。

奥ノ木市長

是非、実現していきましょう。

議長（奥ノ木市長）

それでは、まだまだ意見交換をしたいところではございますが、お時間に限りもございますので、このあたりで終了とさせていただきますと思います。

本日意見交換をいたしました『川口市立高等学校の長期海外派遣制度について』は、私の考えや思いも述べさせていただきましたので、教育委員会における事業実施の際に検討していただければと思います。

議長（奥ノ木市長）

それでは、議事につきましては、以上でございますので、進行を事務局に返します。

事務局（教育総務課長）

奥ノ木市長ありがとうございました。

【その他】

事務局（教育総務課長）

その他ですが、何かございますか。

《意見なし》

【閉会】

事務局（教育総務課長）

本日はお忙しいところ会議にご出席いただき、また、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で、平成29年度第2回川口市総合教育会議を閉会とさせていただきます。